



2026年2月19日

## 各 位

株 式 会 社 フ ィ ス コ  
代表取締役社長 岡本 純子  
(東証グロース市場・コード3807)  
問い合わせ先：  
取締役管理本部長 岡本 純子  
電話番号 03(5774)2440(代表)

## 2025年12月期通期業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2025年2月19日に公表した2025年12月期（2025年1月1日～2025年12月31日）の通期業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2025年12月期通期業績予想値と実績値との差異

(単位：百万円未満切り捨て)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	887	30	30	30	0.65
今回実績 (B)	842	4	5	△ 8	△ 0.18
増減額 (B-A)	△44	△ 25	△ 24	△ 38	—
増減率 (%)	△4.97	△ 85.07	△ 81.71	—	—
(ご参考) 前期実績 (2024年12月期)	867	△94	△92	△297	△6.49

#### 2. 差異の理由

売上高につきましては、情報サービス事業の金融・情報配信サービス分野において、法人向けサービスの売上減少およびIR支援・コンサルティングサービスにおける統合報告書関連売上の減少を背景に、業績予想を下回る結果となりました。当社では、企業調査レポートや新規IRコンサルティング案件など、高付加価値サービスへの転換を積極的に進め、新規顧客の獲得を通じた事業基盤の拡大に取り組んでまいりましたが、売上高の減少を十分に吸収するには至らず、業績予想を44百万円下回りました。

営業利益につきましては、前期下期より継続して実施している原価構造の見直し及び販管費の削減など、抜本的なコスト構造改革の効果が着実に顕在化し、売上総利益率の改善及び固定費の最適化が進展いたしました。しかしながら、売上高が計画を下回った影響を完全には補いきれず、当初予想との比較では営業利益が25百万円下回りました。一方で、前期比較では営業黒字で増益となり、本業の収益力は改善基調にあります。

当期純利益につきましては、過年度決算訂正及び金融庁に対する課徴金を、特別損失として計上したことが主な要因となり、当期純損失となりました。これらはいずれも一過性の要因であり、営業面における収益改善傾向に大きな変化はございません。

以上